



APT無線通信グループ 第24回会合 (2018年9月17日-21日) 報告

総務省 総合通信基盤局 電波部 電波政策課 国際周波数政策室

1. APT無線通信グループについて

APT (アジア・太平洋電気通信共同体) 無線通信グループ (AWG: APT Wireless Group) は、前身であるAPT無線通信フォーラム (AWF) を発展的に再編成し設立されたアジア・太平洋地域における国際会議であり、同地域の無線通信システムの高度化及び普及促進を目的として、年2回程度開催されている。

AWGは、図のとおり、WG SPEC (周波数に係るワーキンググループ)、WG TECH (技術に係るワーキンググループ) 及びWG S&A (サービスとアプリケーションに係るワーキンググループ) で構成され、それぞれのワーキンググループには個別議題の検討を行うSub WG (サブワーキンググループ) やTG (タスクグループ) が設置されている。

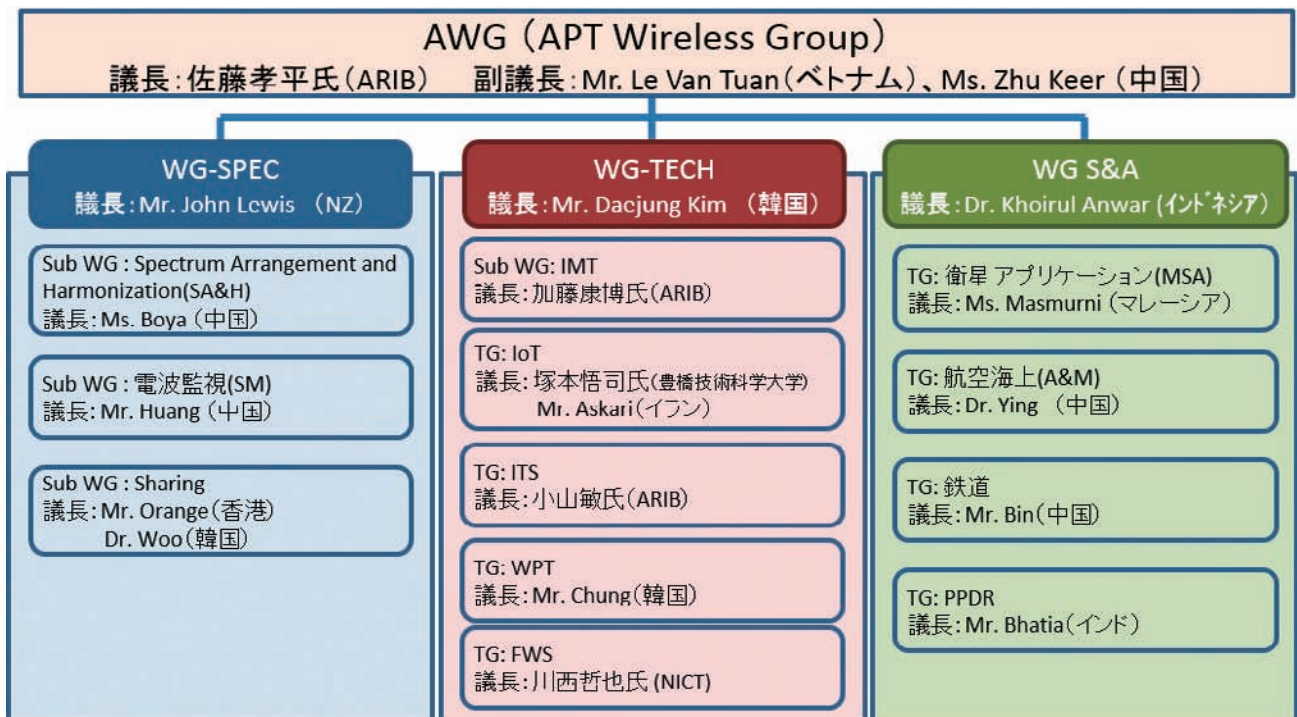
2. AWG第24回会合について

2018年9月17日 (月)~21日 (金) の間、AWG第24回会合

(AWG-24) がタイのバンコクにて開催された。APT域内の20か国・地域の政府、無線通信関係機関、民間企業等から約190名 (うち我が国からは約40名) が参加し、117件の入力文書の審議が行われ、27件の出力文書が作成された。

AWG議長は、2014年より (一社) 電波産業会 (ARIB) の佐藤孝平氏が務めている (任期は2019年まで)。また、WG TECHの下に設置されているSub WG及びTGの議長には、前会合から引き続いて我が国から4名が就任している。Sub WG IMTの議長については、今会合において (株) NTTドコモの新博行氏からARIBの加藤康博氏への交代が承認された。

さらに、本会合では、前回会合と同様に2つのAdhoc Groupが設けられ、APT勧告の採択手続きの改善策について議論するAdhoc Group Recommendations及びHAPSに関連する議論を一括して議論するAdhoc Group HAPSが開催された。



■ 図. AWG-24会合における検討体制



3. 主な結果概要

今会合の主な議題の結果は以下のとおりである。

①IMT関係

「WRC-19議題1.13検討対象帯域に関する域内の利用状況・将来計画に関するレポート案」について、今回会合で完成予定とされていたが、APG19-5に向けて作業を継続するため、完成時期を次回会合に変更することを合意。

②高度道路交通システム (ITS)

前回会合でレポート作成が提案された「セルラーによるV2X」及び「ミリ波ITSアプリケーション」に関する新APT報告の作業計画と骨子が日本からの入力も反映された形で承認され、両報告草案の作成を開始する旨のリエゾン文書をWP5Aに送ることを合意。

③高高度プラットフォーム (HAPS)

日本がAPG19-3で提案したIMT基地局としてのHAPSの周波数特定に関するWRC-23新議題に関し、「HAPS IMT基地局の技術・運用に関する新APT報告草案」の作成が開始され、次回会合での完成を目指すこととなった。また、本草案の作成に関するリエゾン文書をAPG19-4に送付すること、次回から本件に関する新TGを設置することを合意。

④鉄道無線

「RSTT展開に関する新APT報告案に向けた作業文書」の改訂については、日本の入力内容は全て承認されたものの、本報告案に入力しているのは中国と日本のみである旨を記載すべきとのインドネシアの主張によりキャリー

フォワードされ、次回会合での完成を目指すこととなった。

⑤電波監視

マルチパス環境における電波監視技術・手法に関する新レポート草案に向けた作業文書が、日本からの入力も反映された形で更新された。本レポートはAWG-26での完成を目指すこととなった。

⑥固定無線システム

日本が主導して検討を進めてきた「リモート接続を提供するためのFWS技術に関するレポート」が完成。「風によるFWSリンク特性の劣化のモデル化に対する勧告/レポート草案に向けた作業文書」が更新され、日本とベトナムからの入力も反映された形で次回会合にキャリーフォワードされた。

⑦旅客機とのワイヤレスブロードバンド地対空通信

AWG-22から議論が行われている新報告草案に向けた作業文書について、日本の開発例を入力する寄与文書を提出し、反映。報告内容について、WRC-19課題9.1.1に関する周波数帯に係る記述に関する議論等から次回会合へとキャリーフォワードされた。

4. 次回会合について

次回会合 (AWG-25会合) は、2019年5月または6月に開催される予定である。今後のAWG会合においても我が国が積極的に議論を主導するとともに、アジア・太平洋地域との連携をより一層強固なものとし、同地域の無線通信の発展に貢献して参りたい。